

第3種郵便物認可



まずは! 自然観察・間伐体験

全国74か所に約4万4,000ヘクタールの社有林を保有し、林業の推進、豊かな森づくりに取り組む三井物産。今回のツアーは、同社が所有する似湾山林が教室です。参加した親子は4チームに分かれて、三井物産フォレスト(株)のスタッフと共に森の中へ出発。移動する途中でクワガタなどの虫を見つけたり、木や植物に触れて観察するなど、生きている森に親しんでいきました。



こんなかたちで切れ方よ!

植樹を終えて、参加した親子は大満足の表情で集合。生きた森に触れ、林業を通じて森の手入れをする大切さを学びました

大きくなあれ! 植樹体験

森の中のプログラムの最後は植樹体験。地面に穴を掘り、トドマツの苗木を1本ずつ植えていきます。この日、子どもたちが間伐した木の年輪は約50年。子どもたちが思いを込めて植えた木々は、みんながおじいちゃんやおばあちゃんになるころ、見上げるほどに成長し、豊かな森を形成することでしょう。生きている森の豊かさに触れた子どもたちは、日常では体験できない大切なことを学んだのです。



「大きくなあれ」と思いを込めて、トドマツの苗木を1本ずつ植樹。豊かな森がすくすく育ちますように

木ってスゴイ!

苫小牧バイオマス発電見学



森を出た一行はバスに乗り、苫小牧バイオマス発電所へ出発。ここでは森林で伐採された木をさまざまなカタチで活用する事業が行われています。広大な敷地の中を、バスで移動して見学。廃材から生成されるホモゲン(パーティクルボード)を製造するイワクラの工場を経て、発電棟のチップヤードで降車しました。目を見張ったのは、うす高く積み重ねられた木材の山。建材などには使えない道内産の未利用木材で、ここから生成される木質チップを燃料として発電されます。「3,000本分の丸太で、1万世帯の1日分の電力をまかないます」というスタッフの説明に、みんな興味しんしんでした。

※木材の小片に合成樹脂接着剤を塗り、加熱圧縮して成形した板。

森のフィールドツアー 2017



9月2日(土)、「森のフィールドツアー」が開催されました。

今回は林業・森林体験と木材の有効利用をする発電所見学のツアーで、道内の小学4~6年生の子どもたちと保護者20組40名が参加。AIR-Gアナウンサー・高山秀毅さんとともに、初めて足を踏み入れる森や、発電所見学をすることで、木材が有効利用される仕組みを川上から川下まで一連の流れとして学び、森の豊かさ、木を使うことの大切さを実感しました。

圧巻! コースターづくり・高性能林業機械ハーベスタ見学

昼食後、8種類の丸太を手ノコで輪切りにするコースターづくりを体験。間伐作業で手ノコに慣れた子どもたちは、楽しそうに丸太を切る作業に熱中していました。次に、短時間で木を伐倒して丸太に加工する高性能林業機械ハーベスタのデモンストレーションを目の前で見学。効率的に木を伐採・加工するという、林業の現場で使われる機械の圧倒的な迫力、パワフルな作業の様子に、子どもたちは目を見張っていました。



環境保全に配慮した林業を行っている山林 三井物産の森「似湾山林」

全国74か所にある「三井物産の森」の中でも代表的な森のひとつ。総面積約4,750ヘクタールの広大な山林で、針葉樹や広葉樹の人工林のほか、天然生林もあり、動植物も多数生息。林業と環境保全の両立を目指している森です。

参加者インタビュー①



人が踏み入れない森に入ってみたかった。自然と人の力が、森を育てていると感じました

子どもたちに、もっと森を身近に感じてほしい。

森の中では、時間や距離の長さを感じない不思議な感覚を実感し、パソコンなど普段の都会的な作業を一切忘れてきました。木を伐り倒すという専門的な作業を目の前で体験し、木を切り倒すという作業は、木をエネルギーに活用するだけでは見られない現場を実感することができました。普段は都会で暮らしている子どもたちが、森の中で自然に楽しんでいるのが印象的。いかに大人がそういう場面をつくっていないか。

大人は山に行くのは大変だと思うけど、子どもにとっては当たり前のことかもしれない。生活の楽しみとして、職業として、子どもたちにもっと森を身近に感じてほしいと思いました。



伐採から枝払い、玉切りまでの作業を一貫して行う高性能林業機械ハーベスタ。思わず息を飲む圧巻の迫力でした



間伐やコースターの木を切るのがとても楽しく、上手だね、速いねとほめられてうれしかったです!

【石狩市】 武田 美咲さん(10年生) 武田 由季さん

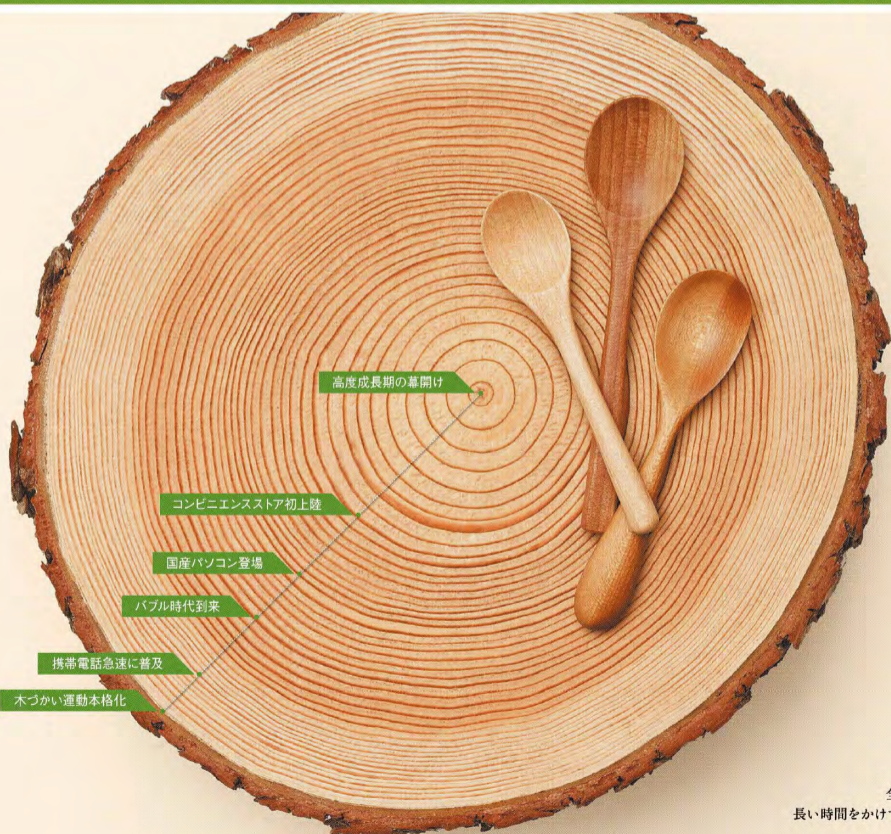
植樹に参加できたのがうれしかったですね。少しでも、誰かのために、地球のためになればと思います

今できること、「考える」から「行動する」へ!

▶ 詳細はホームページへ <http://adv.hokkaido-np.co.jp/eco/> 北海道エコ・アクション 検索 企画制作/北海道新聞社広告局

おじいさんたちが植えた木を、わたしたちが植える木を、みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化してきたこの50年。いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、生活に取り入れて、自然を思いやる「木づかい」の毎日へ。何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。そして、何十年後かのために、あたらしく植える。それは、森林を代謝させ、健康に保ち、みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。三井物産は、次世代のことも考えながら、「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、持続可能な森づくりに取り組んでいきます。木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。



高度成長期の基開け
コンビニエンスストア初上陸
国産パソコン登場
バブル時代到来
携帯電話急速に普及
木づかい運動本格化

高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。



全国70か所以上、約44,000ha。長い時間をかけて、大切に守り育て続けています。